

公開講座活動報告

法人・団体名 熊本県母性衛生学会

テーマ シンポジウム「母子の歯科衛生」

講師

(座長) 片渕美和子 高野病院総合健診センター/熊本県母性衛生学会副理事長

(演者)

大場隆 熊本大学大学院生命科学研究部 産科婦人科学講座 准教授

宮本美砂 城南歯科医院 副院長

宮本格尚 城南歯科医院 院長/熊本市階医師会会長

安田広樹 桜十字病院 呼吸器内科医長

開催年月日: 令和 3 年 6 月 13 日 (日) 14 時~16 時

会場: リモート形式 (Zoom) リモート会場: 熊本大学医学部保健学科 A 棟大会
議室

講演概要

文字数は 1200 字程度で、適宜写真等を 1, 2 枚挿入してください。

1 「妊娠中のお口の健康—赤ちゃんを守るためにできること—」

熊本大学大学院生命科学研究部 産科婦人科学講座 大場 隆

熊本県では 2002 年に新生児死亡率が全国ワースト 1 になったことがあり、産婦人科医師はこれをきっかけに早産と歯周病についての調査をすすめてきた。妊娠によって歯周の状態は悪くなり、妊娠中に歯周病があれば治療することが奨められる。歯周病のある妊婦さんは、早産や妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病の危険が高いと考えられているが、妊娠中に歯周病を治療したら、早産や妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病の危険が減るかどうかはよくわかっていない。熊本県での調査結果をもとに、妊婦さんの歯周病および妊娠中の歯科健診の実態、喫煙が歯周病に及ぼす影響についてデータを用いながらのご講演であった。

2 「子どもの口腔機能と歯列の育て方」

城南歯科医院 副院長 宮本美砂

宮本美砂先生は、自施設での歯科治療と、熊本市の保健センターの3歳児健診に20年以上従事している。この20年、子どもたちを取り巻く環境は大きく変わり、それと同時に子どもたちの口を含む身体の状態も大きな変化が見られるようになった。

まず、ムシ歯の劇的な減少がある。3歳児健診では、1回に約20～30名の子どもを健診するが、ムシ歯のある子どもはごくわずかである。ムシ歯予防に対する保護者の意識も高い。

その反面、口をポカンとあけている口呼吸の子ども、隙間のないギチギチの歯並びの子ども（将来的にガタガタの歯並びになることが予想できます）、滑舌の悪い子どもなど、さまざまな問題のある子どもが増加しており、子どもの歯列の育て方について4つのポイントをご講演された。

3 「お口の中と全身健康とのかかわり」

城南歯科医院 院長 宮本格尚（みやもと くりしあ）

近年、口の中と全身健康との密接な関係がわかってきた。妊婦さんの早産と歯周病の関係も知識として定着してきている。「歯は万病の元」と経験的に昔から言われているが、なぜ、口の中の状態が他の疾患と密接に係わっているのかについては、歯周病はあらゆる細菌が侵入し、全身にさまざまな疾患を及ぼすこととお話しされた。また、子供達の歯を守るためには、お母様方の口の中をしっかりと健康に保つことが最も大切だと話された。さらに現在、新型コロナウイルス感染症が重症化する理由や予防についてもご講演された。

4 「最後まで“口から食べる”ことの大切さ」

医療法人 桜十字病院 呼吸器内科医長 安田 広樹

高齢者の嚥下障害は、その原因が何であるかに関わらず、口から食べてはいけなと言われてしまうことがある。今は、鼻から胃の中まで管を入れる経鼻経管栄養や、おなかの表面から直接胃の中に管を通す胃瘻などの方法があり、口から食べなくても栄養を摂ることは可能である。しかし食べることは、単に栄養を摂るだけでなく、生活の中の楽しみであり、家族など周りの人とのコミュニケーションの機会でもある。それらを失ってしまうことは、本人だけでなく家族にとっても非常に悲しい出来事であるため、

安田医師の病院では、嚥下障害と診断された人が再び口から食べることが出来るように治療を行っている。誤嚥性肺炎の正しい知識や口腔内清潔の重要性や食べることの意義をご講演いただいた。

1. 理事長挨拶（手前に居るのが熊本県母性衛生学会理事長の田代浩徳）



2. シンポジウム（リモート形式）の様子（座長と4名の先生方）

